

環境側面	項目	環境配慮についての目標	2008年度環境目標	実施計画	難易度
環境負荷低減に関する取り組み	総物質投入量及び削減	用紙類の有効活用を図る。	用紙の両面使用を推進する。 グリーン購入法に規定する再生紙の利用を行う。	リサイクルボックスの設置普及を推進する。 封筒の再利用を促進する。 用紙の裏面活用の徹底を図る。 両面プリンタ - の導入を推奨する。	A A A B
	温室効果ガス等の大気への排出量及び削減	CO ₂ 排出量を中期計画において、平成15年度比6%削減を目標とする。	CO ₂ 排出量を対前年度比1%削減を目標とする。	空調機の運転時間及び室温設定の最適化を図る。(原則時間外の運転禁止) 暖房運転期間及び運転時間の最適化を図る。 通勤用自動車のアイドリング抑制を呼びかける。 太陽電池等の代替エネルギー - の導入を検討する。	A B A A
	化学物質排出量及び管理状況	化学物質の適正な管理を行う。	化学薬品について全学一元化的な管理を行う。	全学的な化学薬品管理システムを導入し、化学物質の発注から廃棄まで適正な管理を行う。 化学薬品の使用済み廃瓶・廃容器の定期的回収及び管理の徹底を図る。 廃液回収を月1回程度行い、各実験室の廃液貯蔵量の削減を図る。 不要な化学薬品の回収を随時行い、保管量の削減を推進する。	A A A A
	廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及び削減	廃棄物の発生抑制、リユース・リサイクルを促進する。	廃棄物の分別を徹底し、廃棄物の資源化を図る。 リデュース・リユース・リサイクルの促進を図る。 環境汚染の更なる防止策に努める。	プリンタ - 用トナ - カ - トリッジの回収を行い再利用を図る。 不用什器類の情報提供を行い再利用を促進する。 不用図書を、必要とされる小中学校の図書館等に譲渡する。 蛍光灯・ボタン電池等の分別回収を徹底する。 建設廃材の適正処分を遵守する。	A A A A A
	総排水量及び削減	排水の適正な管理を促進する。	排水の管理を徹底する。	食堂排水のグリストラップ清掃を強化する。 排水の管理体制を周知する。	A A
	グリーン購入の状況及び推進	環境配慮型製品を優先的に購入する。	岩手大学グリーン調達方針に基づく調達を行う。 文房具の共有利用を図り、一具一品運動を推進する。	電子掲示版を利用して、岩手大学における「環境物品等の調達の推進を図るための方針」を職員に周知徹底する。 エコマ - ク・グリ - ンマ - ク商品を優先的に購入する。 備品や文房具の共有化を図る。 FSC森林認証紙も可能な限り使用する。	A A A B
	環境負荷削減と経済効果	省エネルギーの推進を積極的に図る。	省エネ設備の導入を図りエネルギー削減に努める。	省エネルギー設備の導入促進による電気使用量の削減に努める。 トップランナ - 方式による電気機器の更新を図り、節電節約を行う。 ゴミの分別化処理の促進による経費の削減を図る。 農学部動物焼却炉の使用を中止し、アウトソーシングに切り替える。	C B B B
	緑豊かなキャンパスづくり	学内環境整備の促進を図る。	環境整備を全学的に実施する。	年間計画を定め、清掃、除草等の環境整備を実施する。	A

環境側面	項目	環境配慮についての目標	2008年度環境目標	実施計画	難易度	
環境関連の教育・研究に関する取り組み	環境教育	大学・大学院における環境教育・学習を推進する。	環境教育・学習の推進を図る。 「持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」を大学教育に織り込む。	環境に関する図書の実用を図る。 教養教育と専門教育をESDで融合するとともに複合的な人々の諸課題に対応した人材養成のため、全学的副専攻制度を推進する。	A A	
		附属幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校と連携した環境プログラムを定着させる。	附属幼稚園では植物栽培等を通して環境についての関心を持たせる活動を行う。 附属小学校では、「総合的な学習の時間」等を活用し、自然観察や地球温暖化の学習など環境について学ぶ場を創る。 環境への配慮と地域との連携強化を図る。 附属中学校では、環境を守りはぐくむ心と感受性を育て、環境美化活動、エネルギーの節約等に配慮した生活・行動を実践できるよう指導する。 附属特別支援学校では作業学習を通して環境教育に取り組む場を創る。	附属幼稚園では、園庭の自然環境を生かし、身近な昆虫や植物に親しませ、飼育や栽培等を通して、命の大切さを学ぶとともに、生き物が生活しやすい環境について関心をもたせる。 附属小学校では、総合的な学習の時間における「守ろう私たちの盛岡」(4年生)や「中津川探検隊」(3年生)の学習の中で、中津川の水質調査や学校周辺の街路樹調査などを通して身近な地域の環境の実態や自分とのかかわりについて理解するとともに、環境を守っていかうとする意識を児童に育てていく。 附属小学校では、委員会活動やたけのこタイム(たてわり活動)の中で学校周辺の清掃活動や加賀野地下道の清掃活動に取り組む。 附属中学校では、以下の項目について取り組む。 1 校舎内外の環境美化活動として、次の取組を行う。 ・文化活動としての清掃活動 ・校地周辺の清掃活動(加賀野地下道、加賀野地区活動センターを含む) 2 エネルギーの節約等に関連した活動として、次の取組を行う。 ・生徒会の委員会活動として、全校に節水、節電を呼びかける運動を展開する。 ・古新聞や段ボールを集積するなど、資源回収の活動ををす。 附属特別支援学校では、給食の廃油と残飯を利用した石けんの製作、腐葉土作り、牛乳パックからの手漉き和紙作り、自然材を利用した工芸品作り、廃材利用の花壇杭作りの作業学習を通して環境教育に取り組む。	A A A A	
		学生等の環境への取り組み	学生による自主的な環境活動の促進を図る。	キャンパスクリーンサポーター制度の推進を図る。 学生の自主的活動支援事業等を支援する。	キャンパスクリーンサポーターを中心として学生がゴミ拾い、落ち葉拾い等の清掃活動を推進する。 Let'sびぎんプロジェクトの「環境」に関するプロジェクトの各活動を通じて、環境意識の高揚を図る。 環境サークル・リユースによる教科書リユース及び大学祭等におけるリユース食器の使用により、資源の有効活用及び環境意識の高揚を図る。	A B B
		環境に関する研究の取り組み	大学における環境関係の研究を充実する。	環境関係の研究に関する情報を提供する。	環境研究の実績把握と当該研究実績の紹介 ・北上川水系上流域の重金属汚染に関する陸水学的研究 ・バイオマス貴金属リサイクル産業化モデル事業 ・リチウムイオン二次電池による電力貯蔵の研究 食品工場廃棄物のリサイクルと動物用飼料サプリメントの開発 地域連携推進センターを介し、地域に即した卒論研究課題を募集する。この中で、環境関連のものをHPなどで情報発信する。	A C C A A
	環境コミュニケーション	地域における環境関連の事業等への積極的な参加を行う。	地域における環境コミュニケーションを図る。	環境等に関する外部委員会等への積極的な参加・協力を行う。 環境等に関する公開講座、講演等の実施及び自治体等への協力を行う。 附属小学校において地域の掲示板に児童の作品を掲示するなど地域の環境への取り組みに協力する。	A A B	

環境側面	項目	環境配慮についての目標	2008年度環境目標	実施計画	難易度
学内及び地域社会に対する取り組み	構内事業者の取り組み	大学生協としての環境管理システムを構築する。	環境に配慮した取り組み活動を実施する。	<p>ゴミの分別回収を継続実施する。</p> <p>弁当容器としてリサイクル容器を使用し、回収を行い、年間を通してリサイクル率40%を目指す。</p> <p>グリーン購入法適合商品の積極的購入を行う。</p> <p>食器洗浄剤は環境に配慮し「苛性分・リン分」を含まない洗剤に限定して使用する。</p> <p>間伐材を利用した国産割り箸の導入、割り箸の100%回収及びファイバー箸の活用を行う。</p> <p>排水等の環境に配慮し、無洗米を使用する。</p> <p>ゴミの減量化のため、カット野菜を活用する。</p> <p>食堂で利用する米を岩手県産米とすることにより、フードマイレージ削減によるCO₂削減を図る。</p> <p>大学生協における環境に配慮した取り組みをPRし、環境意識の高揚を図る。</p>	A A A A A A B B
		構内事業者参画による環境管理システムの構築を目指す。	「IES いわて環境マネジメントシステム」の認証取得に向けた取り組みを検討する。	<p>岩手版ISO14001である「IES いわて環境マネジメントシステム(ステップ2)」の認証を取得する。</p> <p><主な内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・電力使用量を07年実績の5%削減を目指す。 ・一般ゴミ排出量をリサイクル率向上により07年実績の10%削減を目指す。 ・生ゴミ排出量削減のためのリサイクル取組実験を開始する。 ・レジ袋使用量削減の取組みとして、利用率15%以下を目指す。 	C
			構内事業者参画による環境配慮への取り組みを推進する。	構内事業者の廃棄物排出状況及び処分状況を把握する。	A
	放置自転車の処分と有効活用	放置自転車を削減し、効率的な管理体制を構築する。	全学での放置自転車の実態調査と処分等について検討する。	<p>放置自転車削減への呼びかけを行う。</p> <p>放置自転車の実態調査を行うとともに、リサイクル及び廃棄処分についてのル・ル、システム等について検討する。</p>	A A
	禁煙対策	学内全面禁煙維持を徹底し指導を図る。	学内全面禁煙維持の観点から喫煙問題を検討し、必要な対策を講じる。	<p>学内全面禁煙であることを周知する。</p> <p>受動喫煙の害等への理解・関心を高める。</p> <p>喫煙に関する調査を行う。</p> <p>学内及び学外において定期巡視し、指導及びたばこの吸い殻拾いを行う。</p> <p>職員・学生の希望者に対して、ニコチン補充療法等による禁煙支援を実施する。</p>	A A A B A
	地域社会との関わり	地域社会の取組みに積極的に協力する。	地域社会の意見を反映させるための仕組みを検討する。	<p>【計画設定】 近隣町内会との大学周辺環境に関する連絡会を設定する。</p> <p>ホームページで岩手大学の環境に関する取り組みや現状等をわかりやすく紹介する。</p>	A
		地域社会への情報公開を推進する。	岩手大学の環境への取組みについて地域社会に発信する。		A